

団体へアドバイスするためのヒント

～チェックシートと本編との関連性～

●取組を活発化させるためには

点検項目

- ・丁寧なニーズ調査を行っており、ニーズに合った取組内容になっていますか
⇒ P63 【支援者のサポートの例】を参照
- ・団体内で、定期的な打合せや関係者に情報提供を行うなどの工夫をしていますか
⇒ P62 【組織運営の強化につながる例】を参照
- ・活動を継続的・安定的に行えるよう、専門的なスタッフを置く、役割分担をするなど、組織づくりを行っていますか
⇒ P62 【組織運営の強化につながる例】を参照
- ・取組を継続するために資金や人材について意識して取り組んでいますか
⇒ P62 【組織運営の強化につながる例】を参照
- ・取組がニュースや広報誌などに上げられるなど、活動が認められたことがありますか
⇒ P73 「イ 認知・顕彰する機会の創出」を参照
- ・団体の状況に合わせて、取組の規模や取組手法を定期的に見直していますか
⇒ P67 「キ 取組内容の見直し」を参照

◆ポイント

取組が活発化するには、組織内で情報共有ができています。組織運営や事業運営に必要なスタッフやスキルなどを持っている。活動について広く発信するスキルを持っているという要素が必要です。

また、取組の目的やニーズと、活動主体の担い手の状況やキャパシティを考慮し、活動主体の状況にあった取組手法や取組規模を検討することが活発化につながるといえます。

⇒ P33 「①取組が活発化する要因」を参照

●担い手を増やすためには

点検項目

- ・活動に楽しめる要素を取り入れるなど、参加してみようという気持ちを高める工夫をしていますか
⇒ P63 「ア 活動への参加を求める前の段階の工夫」を参照
- ・活動目的、取組内容、成果等の団体の活動内容や活動に参加する方法が分かりやすく示されていますか
⇒ P65 「ウ 活動内容と参加方法の公表」を参照
- ・参加してもらう人の負担軽減や、各自の都合に応じた対応を行うなど、参加する際のハードルを下げる工夫をしていますか
⇒ P65 「エ 参加形態の工夫」を参照
- ・参加にあたり、身近な知人に声をかけるなど、日ごろのつながりやコミュニケーションの中で誘いあっていますか
⇒ P66 「オ 募集方法の工夫」を参照
- ・担い手に対して、活動の目的や意義の確認、活動スキルを高める目的の研修や勉強会、打合せを行っていますか
⇒ P67 「カ 担い手の育成」を参照
- ・担い手の活動を認める工夫や、活動に楽しい要素を取り入れるなど、モチベーションを維持するような工夫をしていますか
⇒ P67 「カ 担い手の育成」を参照

◆ポイント

多くの方に活動に参加してもらうためには、受け入れ体制を整え、積極的でオープンなスタンスをもち、参加のハードルを下げる工夫や参加したいという工夫をし、日頃のつながりのなかでよいタイミングで誘い合うことなどが重要といえます。

また、担い手を育成するには、活動意義の確認や活動スキル向上を目的とした研修や勉強会などの機会を持ち、活動に楽しい要素を取り入れる、担い手の活動を認知・顕彰する機会を持つなどしてモチベーションを維持する工夫が必要であるといえます。

⇒ P34 「②担い手の参画のための仕掛け」、P35 「③担い手育成のための仕掛け」を参照

●課題解決をより一層進めるためには

点検項目

- ・現在のメンバーでは解決しない、取組が広がらない課題があることを認識していますか
⇒ P69 「ウ-(ア) 連携協働に至るプロセスやメリット」を参照
- ・他の団体と連携協働することで、課題解決が進む場合があることを知っていますか
⇒ P69 「ウ-(ア) 連携協働に至るプロセスやメリット」を参照
- ・課題が解決できるなら、他の団体と連携してみようという前向きな姿勢がありますか
⇒ P69 「ウ-(ア) 連携協働に至るプロセスやメリット」を参照
- ・団体のリーダーが連携協働に積極的ですか
⇒ P69 「ウ-(ア) 連携協働に至るプロセスやメリット」を参照
- ・他の団体の参画が得やすいよう、課題や取組をオープンにしていますか
⇒ P69 「ウ-(ウ) 多様な主体の活動情報」を参照
- ・行動を起こしたときに、適切なアドバイスをくれる人・団体に出会えていますか
⇒ P74 「ア 戦略を持つ」を参照

◆ポイント

連携協働の取組がはじまるためには、活動主体においては、リーダーをはじめ団体の総意として、連携協働で取り組むことの必要性やメリットについて理解が進んでいる必要があります。

⇒ P35 「④連携協働をはじめる契機」、P36 「⑤多様な主体の参画のための仕掛け」を参照

●他団体と連携するには

点検項目

- ・協働相手が参画しやすいように受け入れ体制を整備していますか
⇒ P69 「ウ-(ウ) 多様な主体の活動情報」を参照
- ・多様な主体と連携するためには、参画を促す工夫が必要であることを認識していますか
⇒ P70 「イ 協力者を得ることができる活動の見せ方」を参照
- ・実施主体としての連携に限らず、場所や資金の協力、ノウハウの伝授や情報発信支援など、多様な連携の形態を認識していますか
⇒ P71 「ア「つながりをつくること」を目的とした場の設定」を参照
- ・連携協働を考えたときに、地域にある交流の場を紹介してくれたり、多様な主体と連携する協力してくれるコーディネート機能に出会っていますか
⇒ P74 「イ 幅広い知識や情報の習得」を参照
- ・合意形成を図りながら進めることができるスキルを持っている人材がいますか
⇒ P74 「ア 戦略を持つ」を参照

◆ポイント

多様な主体に参画してもらうためには、他団体と連携する体制を整え、オープンなスタンスで情報を発信し、連携相手に応じた多様な連携の形態を視野にいれて、参画のハードルを下げる工夫や参画したいという気持ちが高まる工夫をすることが必要です。

また、異なる団体間の意見をまとめていくスキルを持った人材がいることも必要です。

⇒ P37 「⑥連携協働が進む要因・阻害する要因」を参照